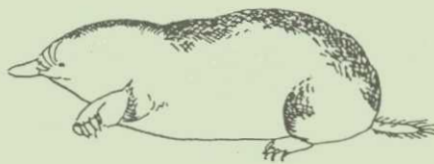
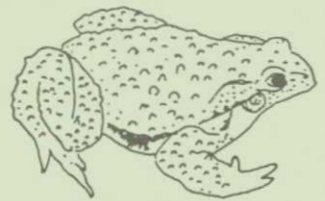


すぎなみの生き物たち

(すぎなみの生き物アンケート調査結果のまとめ)

杉並区都市環境部環境保全課



はじめに

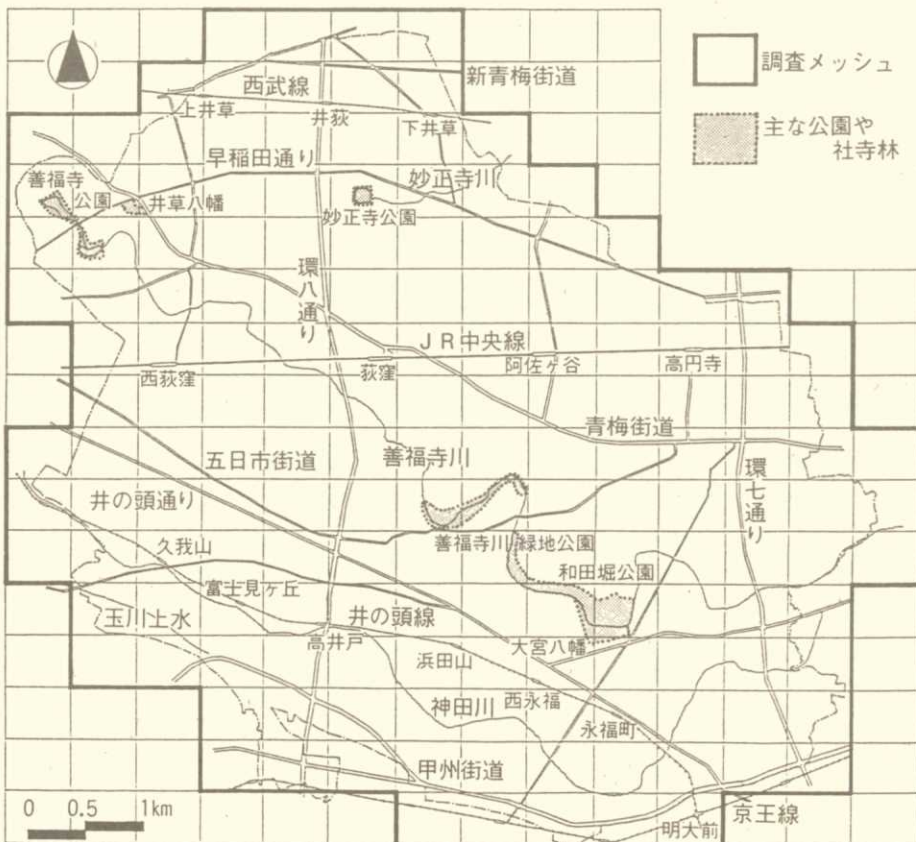
これは、杉並区が区民のみなさんの協力により行なったアンケート調査の結果をまとめたものです。杉並区では、昭和60・61年度に区内の自然環境を知る手がかりとして、動植物に関する第1回の調査を行ないました。今回の第2回調査はそれから5年後の平成2・3年度に行なわれたものです。前回同様、多くの方々の熱心なご協力により、さまざまな貴重な資料を得ることができました。

その結果は、会報「すぎなみの街と自然」にも掲載しましたが、ここでは、区内のみどり（自然）と生き物の分布が、どのような関係になっているのか、第1回と第2回の調査結果を比べて、5年間で生き物にどのような変化が起きたか、などを中心にまとめました。

〔平成2・3年度に行なわれたアンケート調査の項目〕

- 植物 : 春の野草, 初夏の野草, 秋の野草
- 動物(クモ類) : オニグモ, ショロウグモ
- (昆虫類) : セミのぬげがら
- (鳥類) : えさ台にくる鳥, 鳥の集団ねぐら, 冬の鳥, ツバメの巣しらべ
- (その他) : 小動物(ほ乳類, 両生類, は虫類)

■調査対象メッシュ

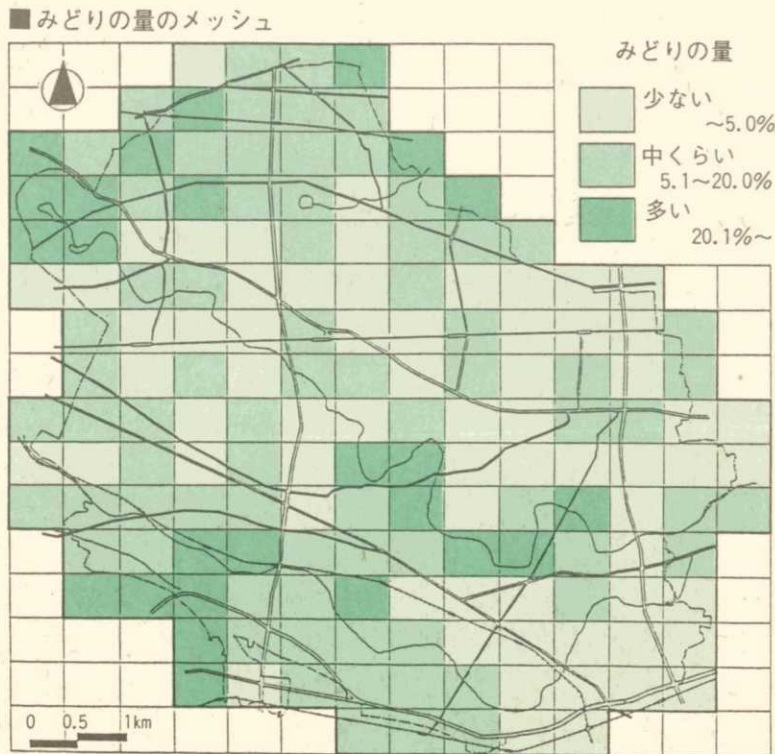
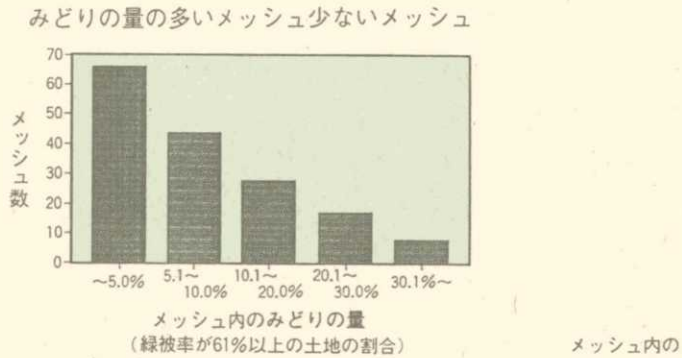


杉並区のみどりについて

アンケートで調べた生き物が、どのようなところにみられるのかを知るために、アンケート調査で使われているメッシュのなかの、みどりの量（緑被率）を調べました。みどりの量は、「昭和62年度杉並区緑化基本調査」の〈樹木率+草率〉をもとにしました。

みどりが多い環境（緑被率が61%以上の土地）が、ひとつのメッシュの中でどれくらいの割合を占めるかをみました。下のグラフは、みどりが多い割合を5段階に分けてみたものですが、約3分の1のメッシュは、みどりの量が5%以下の地域となっています。

下のメッシュでは、分かりやすくするため、みどりの量を「少ない」「中くらい」「多い」の3つに色分けしました。ここでは、区西部のみどりの多いメッシュがいくつかみられますが、その半分近くは区境の地域で、隣の武蔵野市、三鷹市などの面積の割合が大きいメッシュです。



アンケート調査結果から

〔植 物〕

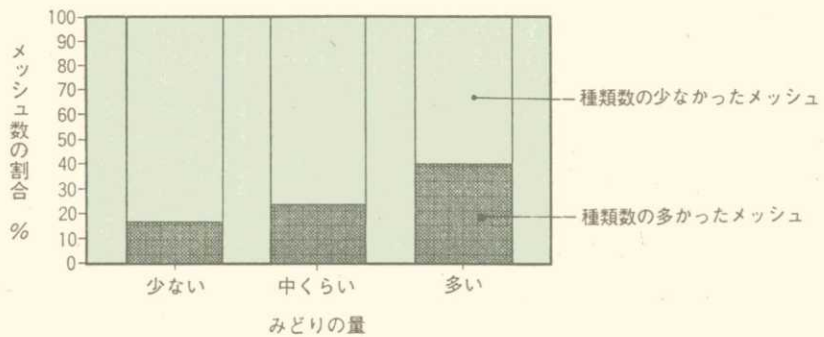
区内の代表的な地点を選んで行なった「杉並区自然環境調査」(平成2・3年度)では、合計138科1089種の植物の生育が確認されています。このなかには、今ではわずかな地域にしかみられなくなった、カタクリ、ホタルブクロ、サラシナショウマといった種類も含まれています。特にカタクリは、ほかの区ではほとんどみられない種類で、大変貴重な植物といえます。

アンケート調査では「春の野草」「初夏の野草」「秋の野草」について、合計30種を対象にしていますが、ここではそのうちの代表的な種類についてみていきます。

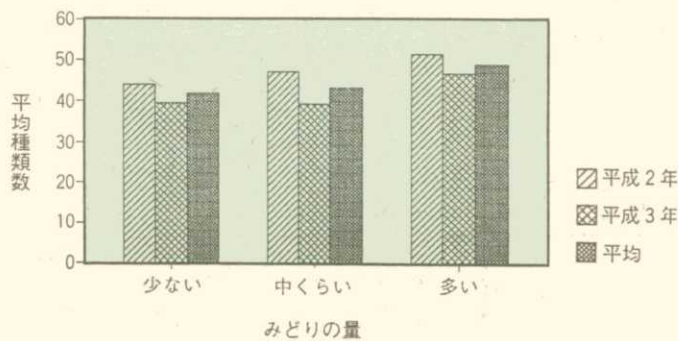
植物の種類数

アンケート調査では、どこにでも生育し、目につきやすい植物を選んでありますが、確認できた植物の数は、平成2年度に比べて平成3年度のほうが、やや少ない傾向がみられました。区内の、北西部、南西部、善福寺川沿いの中央部など、みどりの多いメッシュには、多くの植物がみられるようです。しかし、みどりの少ないメッシュでも、種類数の多かったところもあります。その一部については、特に熱心に観察した方がおられたと思われるのですが、大部分は、メッシュのなかに公園、神社、お寺などの緑地がありました。

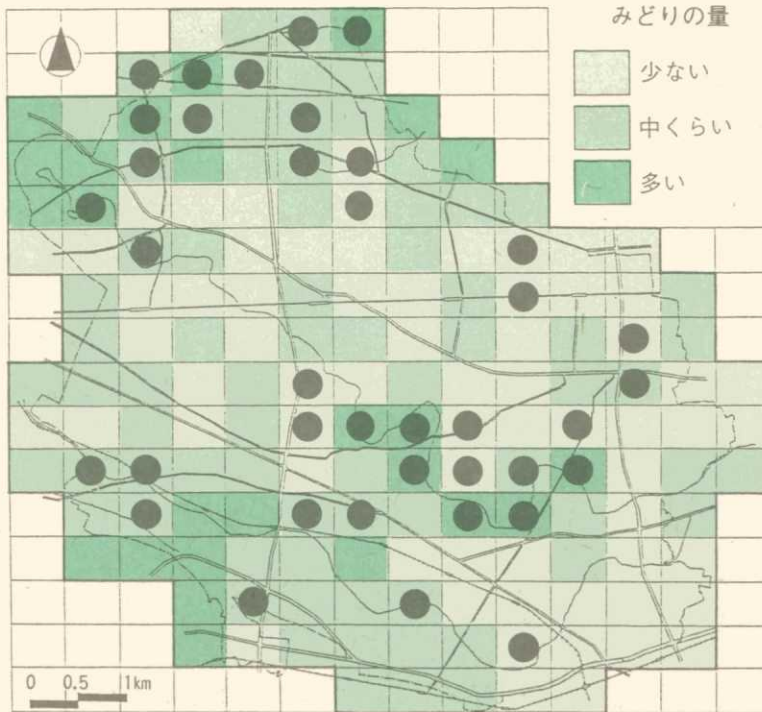
■ 植物の種類数の多かったメッシュの割合



■ みどりの量と植物種類数



■植物の種類数が多かったところ

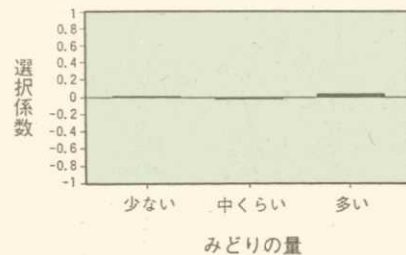
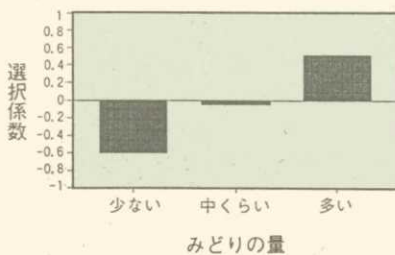


* グラフのみかた

生き物のメッシュ図とあわせて示したみどりの量と生き物の分布のグラフは、その生き物がどの程度の緑被率のところを好んでいるかを示したものです。グラフの棒は、その環境を好むときは上に出て、好む度合いが強いほど棒が長くなり、最高で1となります。反対にその環境を好まないときには下に出て、最低は-1となります。下のグラフを例にすると、左はみどりの「多い」ところで棒が上に長くなっていますので、みどりの多いところを好む種類となります。反対に、みどりの「少ない」ところが上に長くなると、みどりの少ないところを好む種類となります。

また、右の0のところではほぼ一直線になっているグラフは、みどりの量に関係なくみられる種類といえます。確認されたメッシュが多い種類は右のグラフのようになります。

■みどりの量と生き物の分布



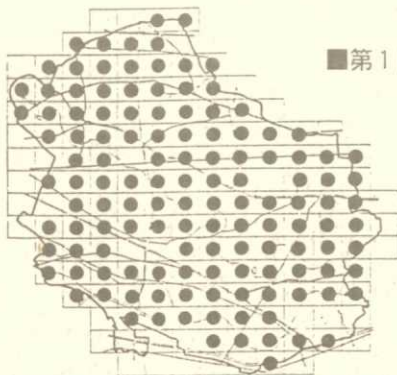
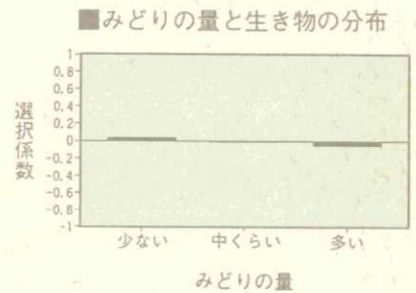
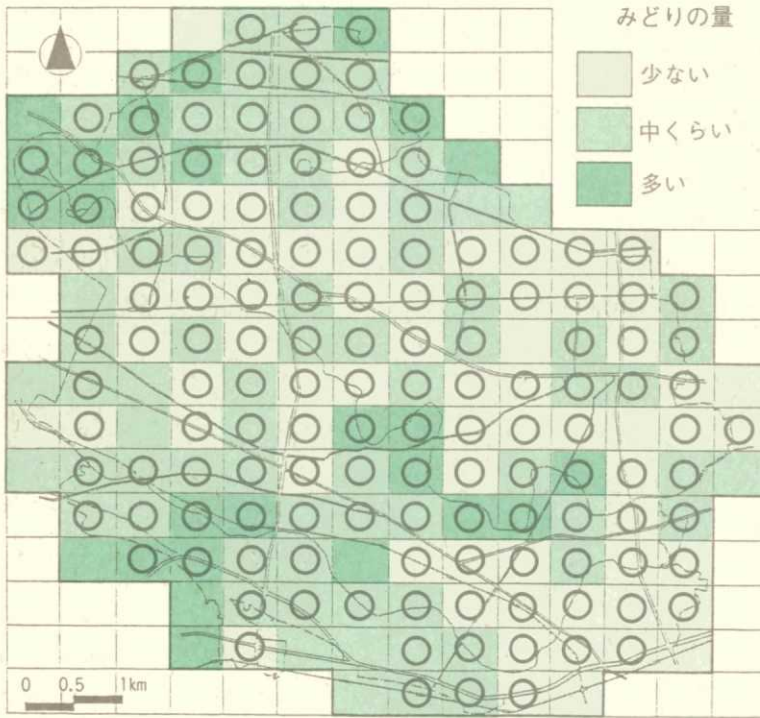
代表的な野草

アンケートで調べた植物のうち、公園や道端などのようなところに生える種類や帰化植物、あるいは「杉並区自然環境調査」(平成2・3年度)で注目種とされている植物などについて、第1回のアンケート調査と比べながらみてみます。

特徴のある環境に広くみられる野草

○オオバコ

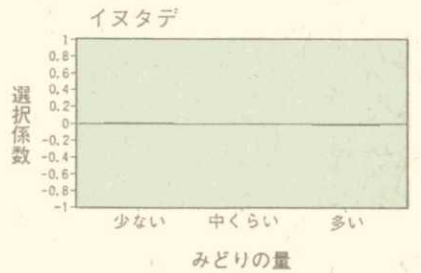
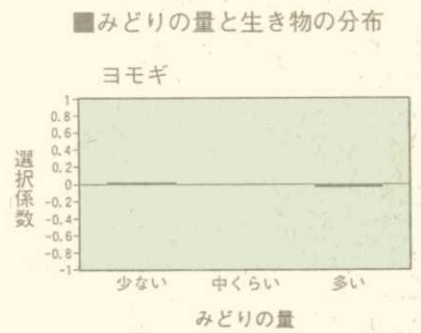
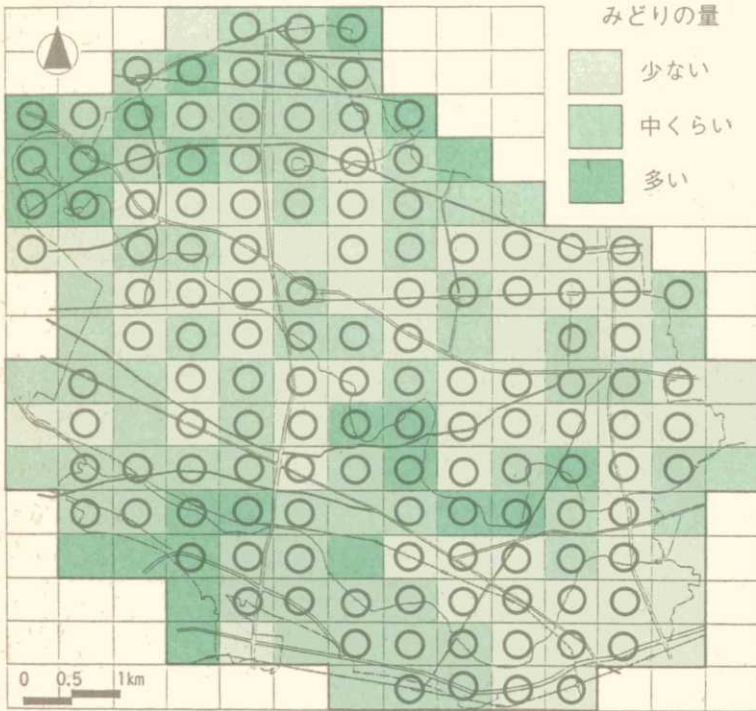
道端、グラウンドなどのように、いつも人に踏みつけられるような場所にみられますが、逆に踏みつけがなくなると減ってきます。みどりの多いところから少ないところまで、区内のほぼ全域で見られます。第1回と比べても、大きな変化はありません。みどりの量と生き物の分布のグラフでも、オオバコの好むところは、みどりの量にあまり関係ありません。



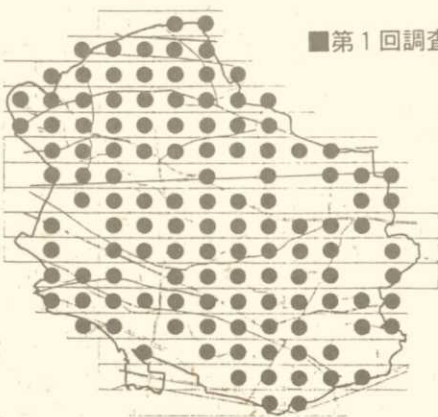
○ヨモギ

日当たりがよくて人の踏みつけがなく、土壌の比較的肥えたところならば、小さな空き地にも生えている植物です。ほぼ区内全域の広い範囲で見られ、みどりの量に関係なくみられますが、オオバコに比べると、やや少ないようです。第1回の結果とほとんど違いはありません。

なお、似たような場所に生育するイヌタデも、みどりの量と生き物の分布のグラフでは、同じようにみどりの量に関係なくみられます。



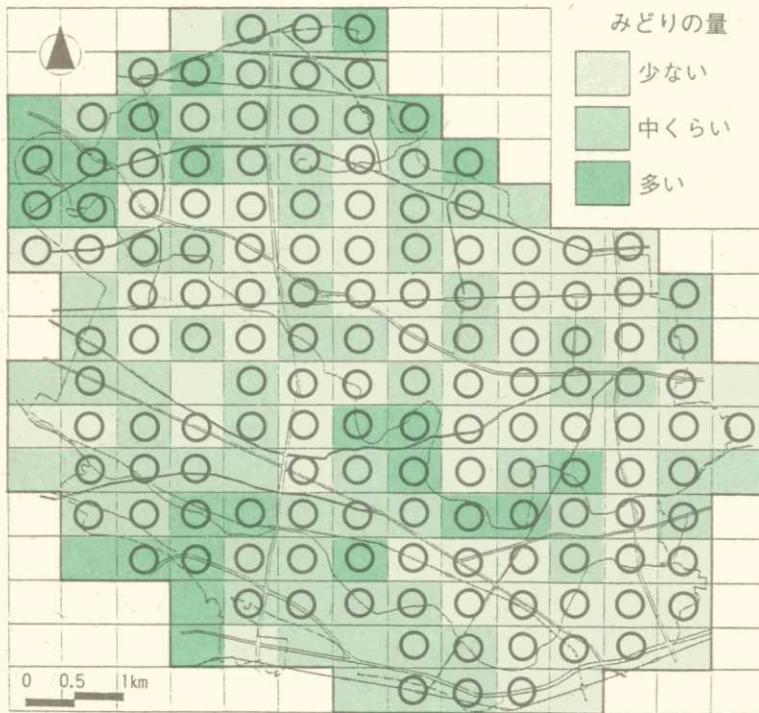
■第1回調査結果



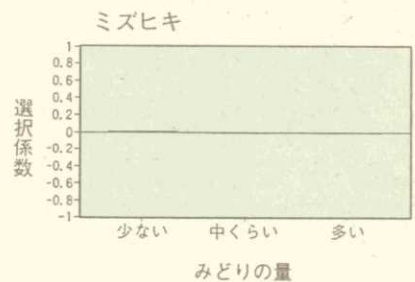
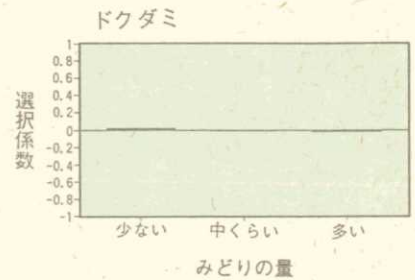
○ドクダミ

日陰で人の踏みつけがなく、比較的湿ったところならば、わずかなスペースにも生える植物です。みどりの多いところから、少ないところまで区内のほぼ全域にみられます。第1回の調査では、区の南東部に未確認地域がまとまってありましたが、第2回は区内のほぼ全域で確認されています。

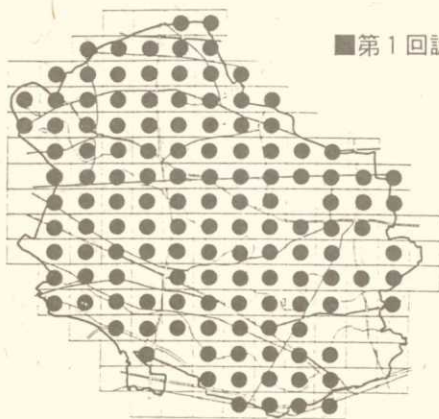
なお、似たような場所に生育するミズヒキも、みどりと生き物の分布のグラフでは同じようにみどりの量に関係なくみられます。



■みどりの量と生き物の分布



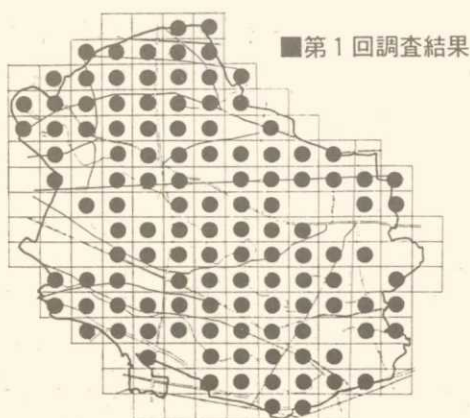
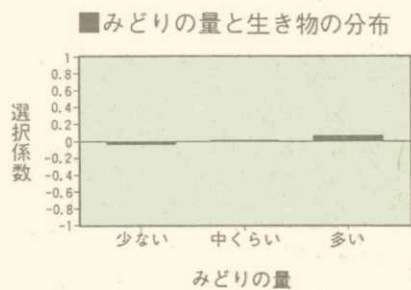
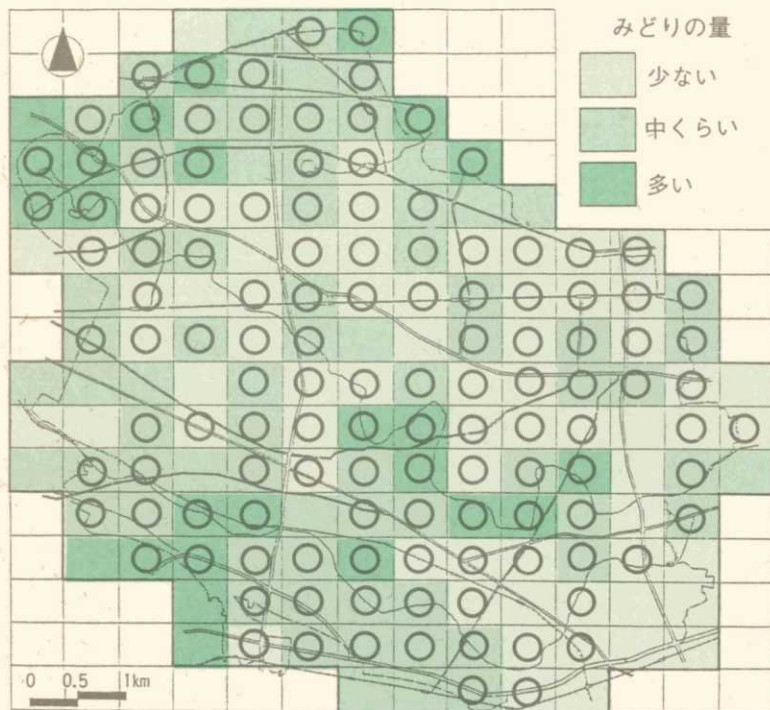
■第1回調査結果



帰化植物

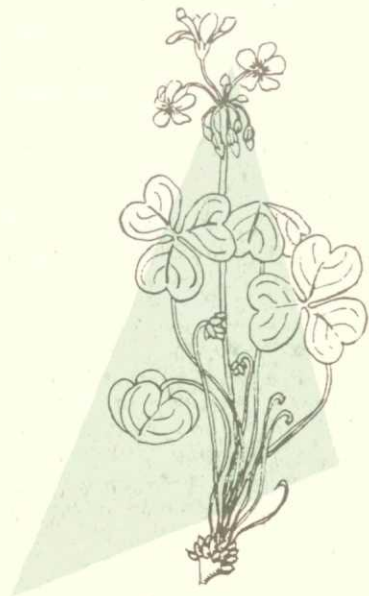
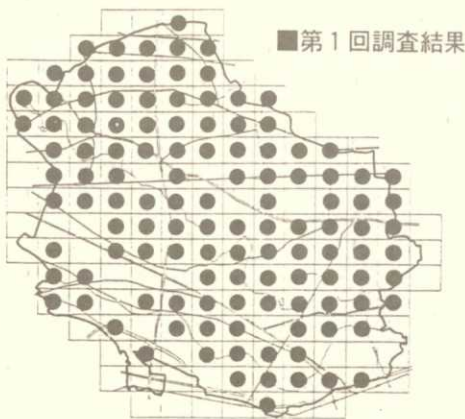
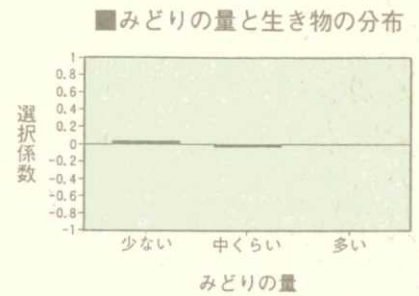
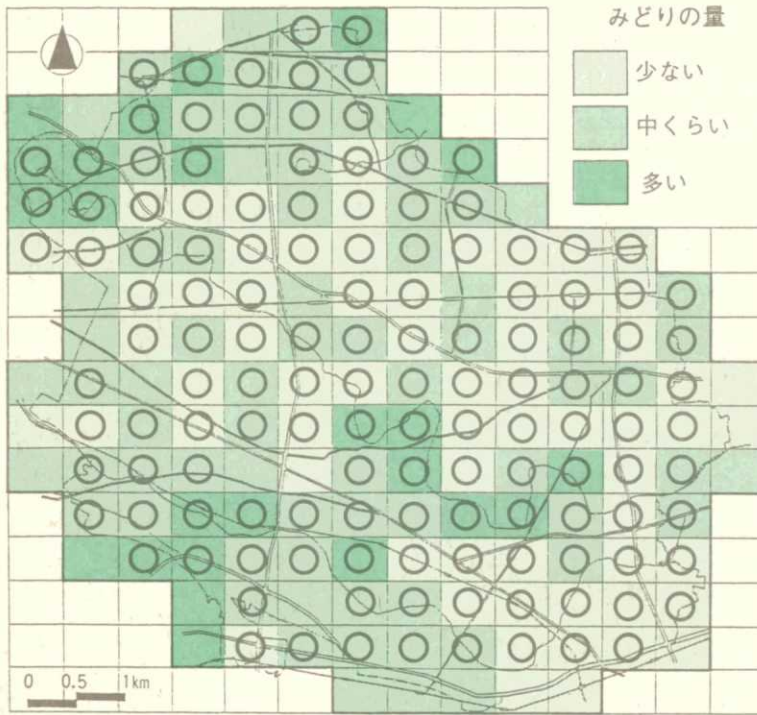
○ヒメオドリコソウ

人の踏みつけが少なく、日当たりのよい草地から、小さな空き地にまでみられる帰化植物です。ほぼ全域で確認されていますが、ところどころ未確認地点もあります。わずかですが、みどりの多いところを好む様子がみられます。第1回、第2回の調査とも、区の西部、東部から北東部にかけて未確認地点が多くなっています。



○ムラサキカタバミ

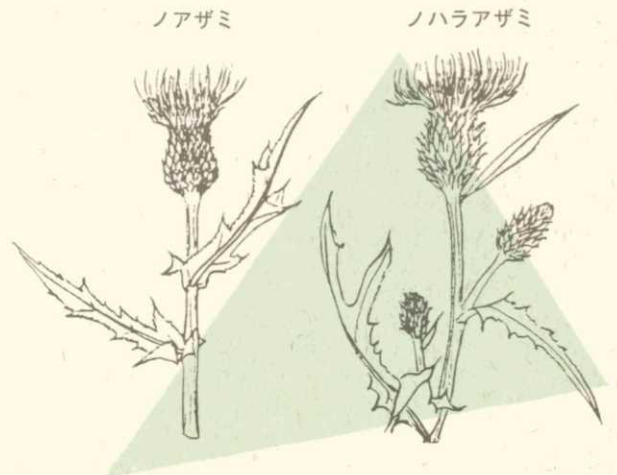
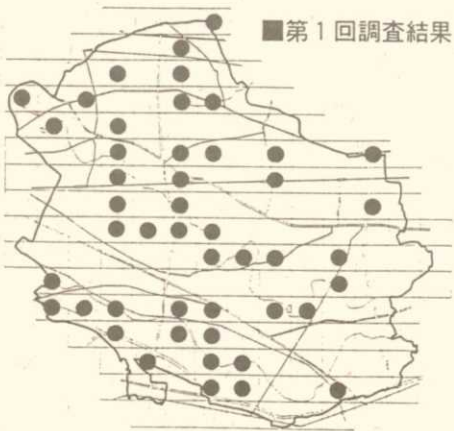
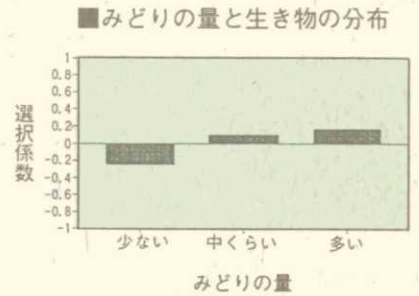
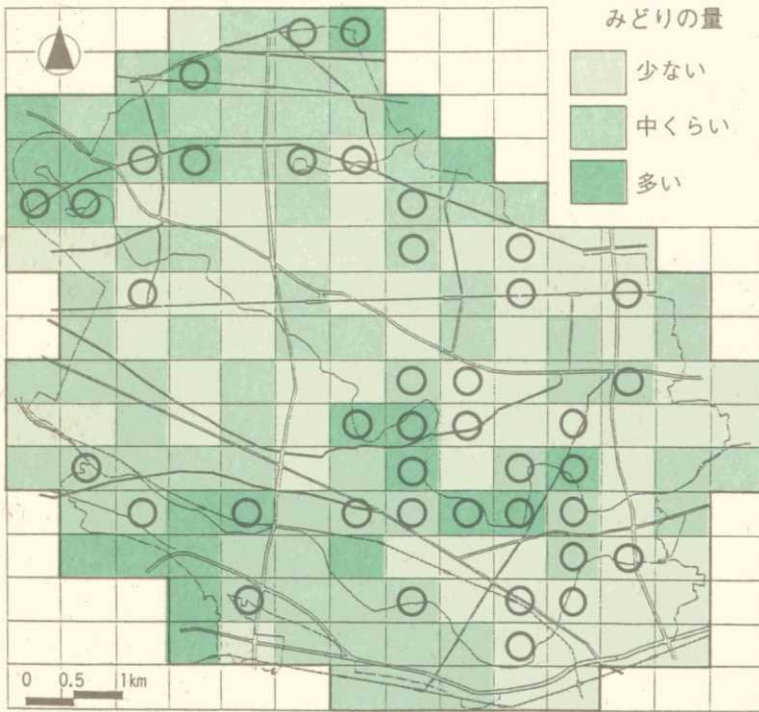
人の踏みつけが少なく、日当たりのよい、小さな空間や植え込みなどにみられる帰化植物です。区内のほぼ全域にみられますが、ややみどりの少ないところを好む傾向がみられます。第1回と比べても、それほど大きな変化はありません。環八通り沿いの数地点では、第2回の調査でも確認されていません。



注目種

○ノアザミ・ノハラアザミ

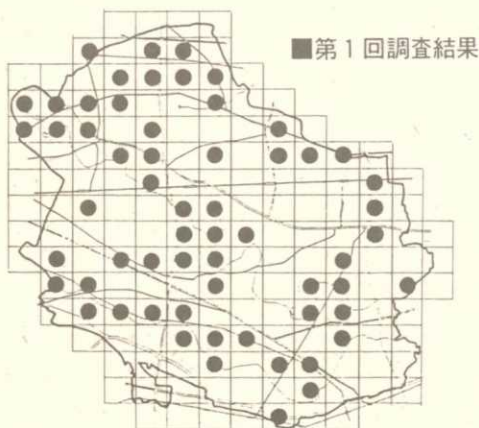
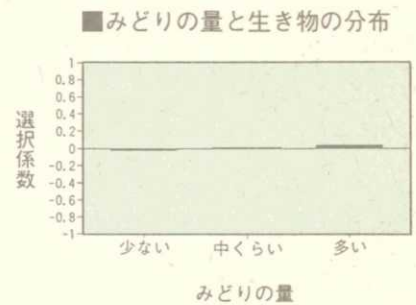
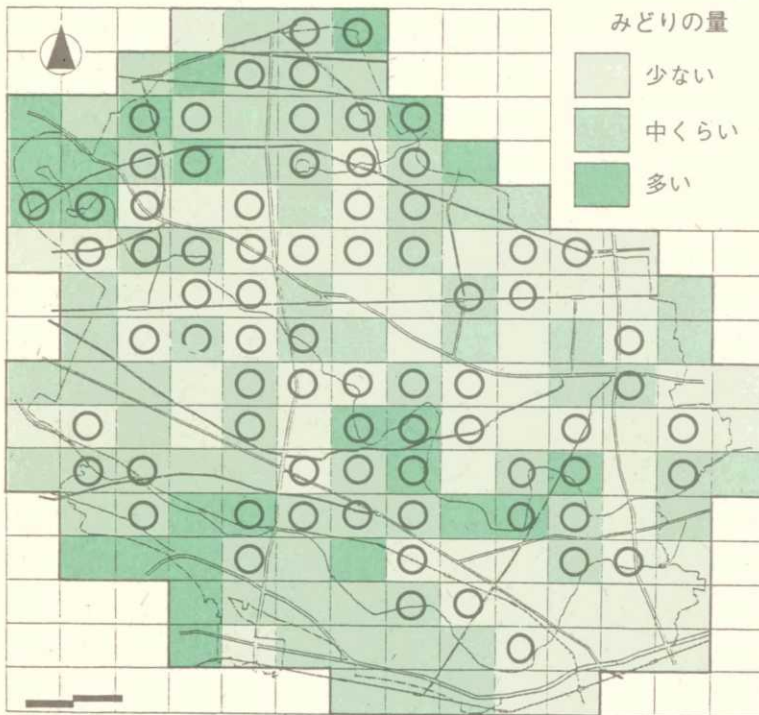
この2つは種類の異なるもので、姿や花の咲く時期なども異なりますが、どちらも、やや湿り気のある、日当たりのよい草地などにみられます。善福寺川沿いの善福寺川緑地公園、和田堀公園のある中流部、善福寺公園のある上流部のほか、妙正寺川沿い、神田川沿いの下流部、そして区の北部や南西部など、みどりの多いところにみられます。第1回の調査と比べると、分布の違いはありますが、善福寺川沿いの上～中流部、妙正寺川沿い、区の北部や南西部などでは変化がありません。



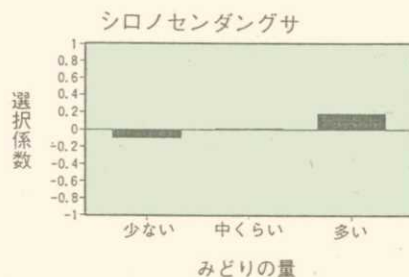
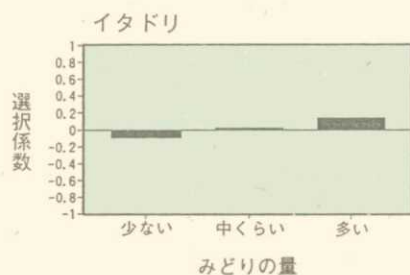
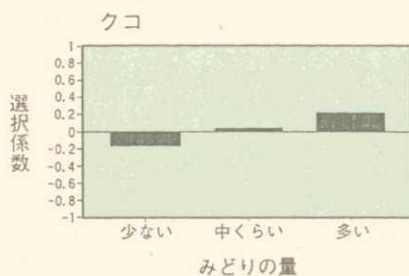
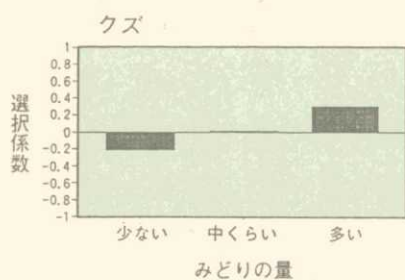
○ホタルブクロ

日当たりのよい林のふちや、草地に生える植物です。荻窪から高円寺にかけての青梅街道沿い、環八通りよりも西の五日市街道、井の頭通りよりも東の神田川、甲州街道沿いなどに未確認地域が点するほかは、比較的広い範囲で見られます。わずかですが、みどりの多いところを好む様子がみられます。第1回に比べると、やや増えています。未確認地域に大きな変化はありません。

なお、右のページのみどりと生き物の分布のグラフに示したクス、クコ、イタドリ、シロノセンダングサなども、みられたところはやや少ないのですが、みどりの多いところを好む様子がうかがえます。



■みどりの量と生き物の分布



カントウタンポポとセイヨウタンポポ

帰化植物のセイヨウタンポポは、在来種のカントウタンポポに対して、都市化の目安となる植物とされています。これは、カントウタンポポが、ほかの個体の花粉でないと受粉しないことや、夏にはほかの植物の陰で夏眠するため、草の生えていないようなところには生育できないのに比べ、セイヨウタンポポは、受粉しなくても繁殖ができ、そのうえ、休眠期がないために草のあまり生えない都市にも適応した性質をもっているからです。

アンケート調査によると、セイヨウタンポポは、みどりの多さに関係なく区内のほぼ全域にみられます。第1回と比べても大きな変化はありません。これに対し、カントウタンポポのみられるところは限られていて、区の北西部から善福寺川沿いの中流部、神田川中流部などに分布がかたよっています（次ページの分布図参照）。第1回に比べると、区の北西部から善福寺川沿いの中流部では、変化はあまりありませんが、第1回でみられなかった南部の神田川沿いや、西部、東部で新たに記録され、逆に、第1回にみられた環七通り沿いの西側、JR中央線の北側などでは確認されませんでした。この地域では、セイヨウタンポポに負けてしまったのかもしれませんが。

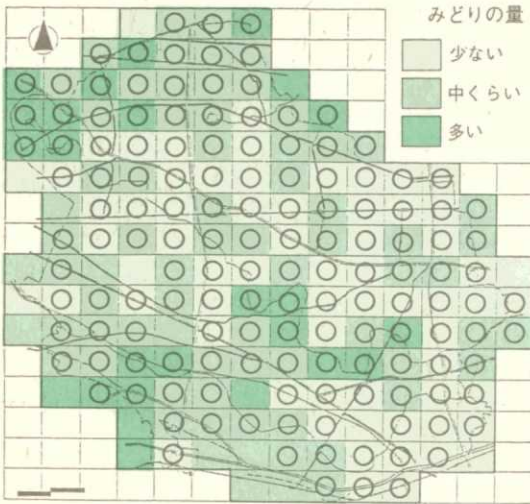
カントウタンポポ



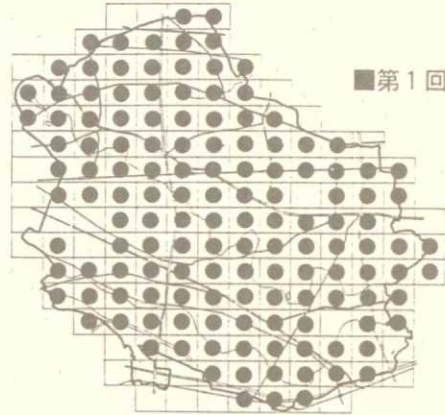
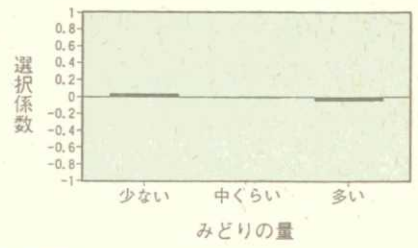
セイヨウタンポポ



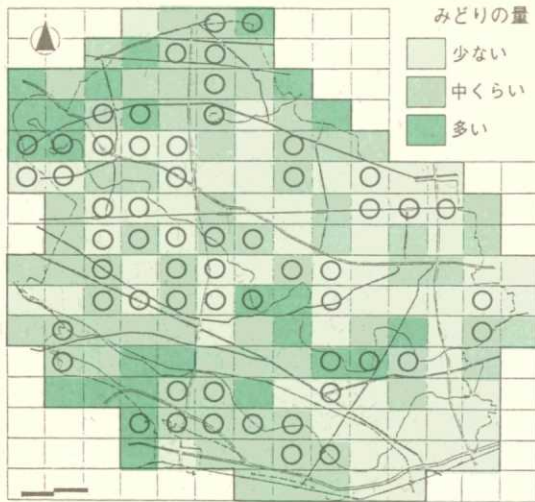
セイヨウタンポポ



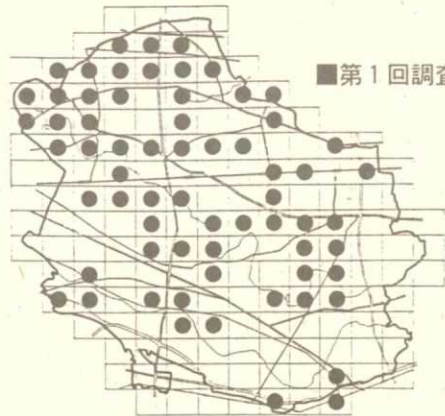
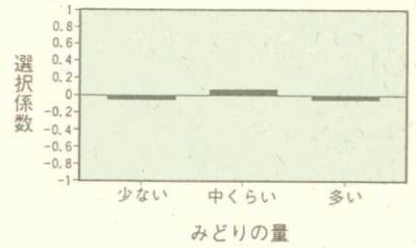
■みどりの量と生き物の分布



カントウタンポポ



■みどりの量と生き物の分布



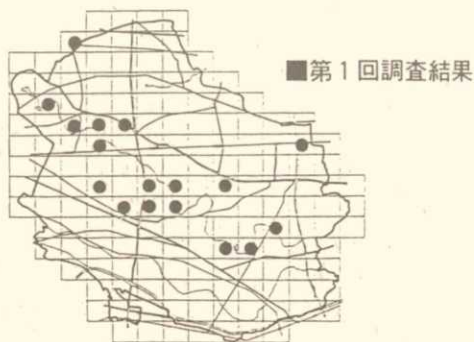
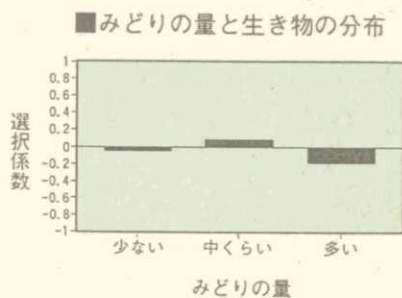
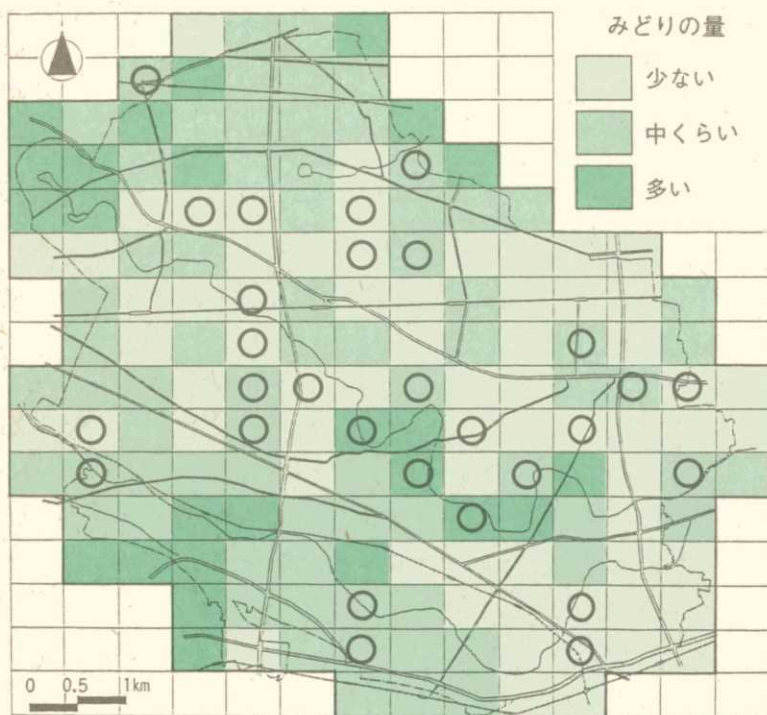
〔クモ類〕

区内の代表的な地点を選んで行なった「杉並区自然環境調査」(平成2・3年度)では、合計28科153種のクモ類が確認されています。このなかには、以前は区内にも広くみられ、数も多かったと考えられるが、今は、わずかな地域にしかみられなくなったジグモなどの地中性のクモ類をはじめ、さまざまな種類が生息しています。

アンケート調査では「オニグモ」「ジョロウグモ」を対象としていますので、ここでは、この2種についてみることにします。

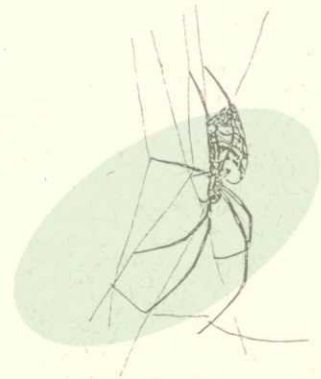
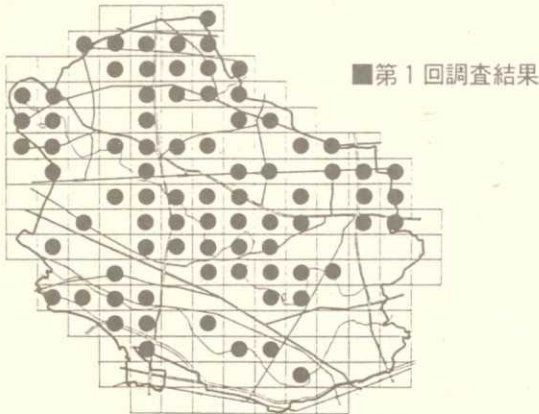
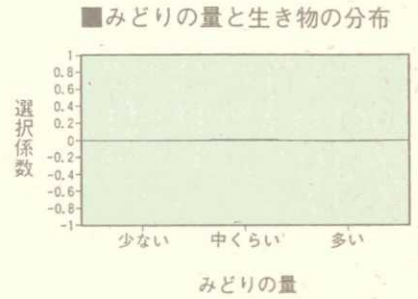
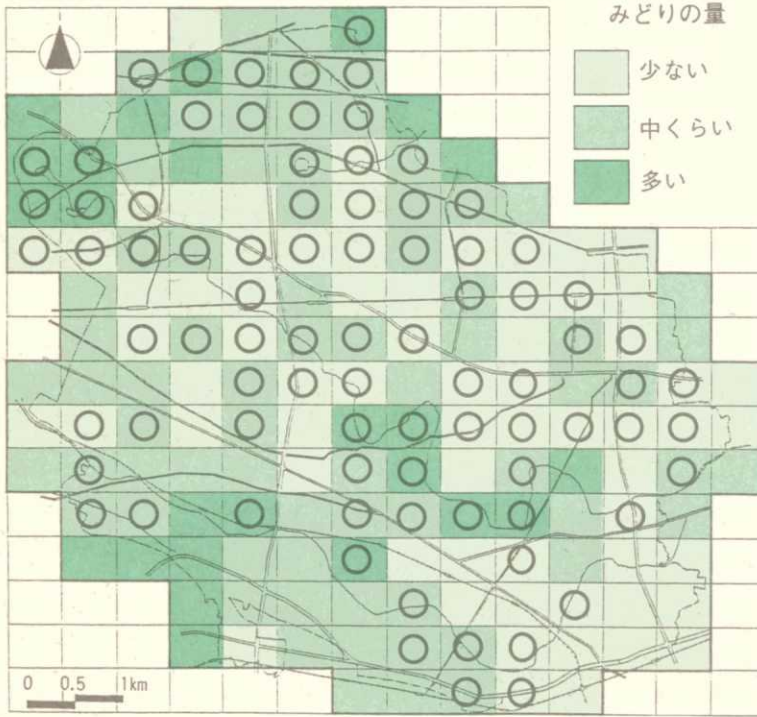
○オニグモ

庭木や軒の下などにみられる大きなクモで、大きな網を張ります。ほぼ全域に広くみられました。生息しているのは、緑地の多い神社やお寺、公園、屋敷などのようなところ です。第1回は調査回数が1回であったのに対し、第2回では2回の調査を合わせたこともあって、確認した数は第1回の倍以上となりました。



○ジョロウグモ

オニグモと同じ仲間であのまわりから山地まで広くみられる、胴体の黄色と赤が目立つクモです。オニグモと違い、区内全域に広くみられ、みどりの少ないところでも分布しています。第1回と比べると、第2回のほうがやや多くなっていますが、あまり大きな変化ではありません。



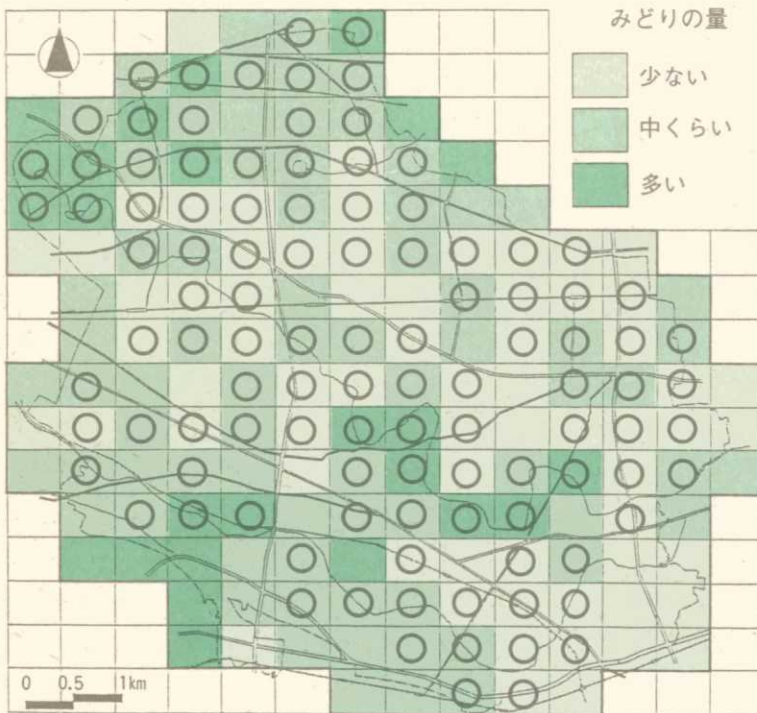
〔昆虫類〕

区内の代表的な地点を選んで行なった「杉並区自然環境調査」（平成2・3年度）では、合計124科479種の昆虫類が確認されています。このなかには、今はわずかな地域にしかみられなくなった、平地性のチョウでゼフィルス（ミドリシジミ類）の仲間ミズイロオナガシジミなども含まれています。

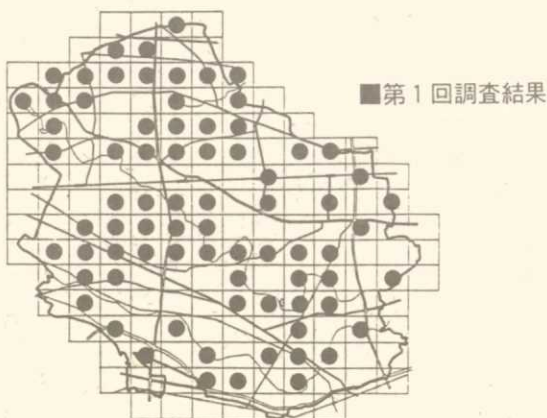
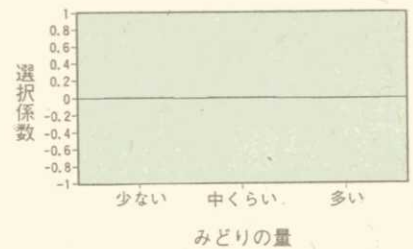
アンケート調査では「セミのぬげがら」を対象としていますので、ここでは、セミ類3種についてみてみます。

○アブラゼミ

夏に「ジィー」とよく鳴くセミで、卵から親になるまでに7～8年かかります。区内全域に広くみられ、みどりの少ないところでも記録されています。第1回と比べると第2回のほうがやや多くなっています。その理由はよくわかりませんが、7～8年前にたくさん産卵されていたのかもしれない。

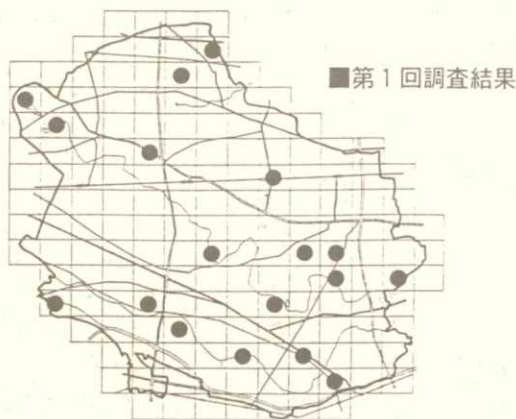
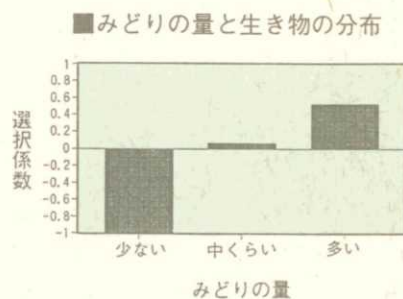
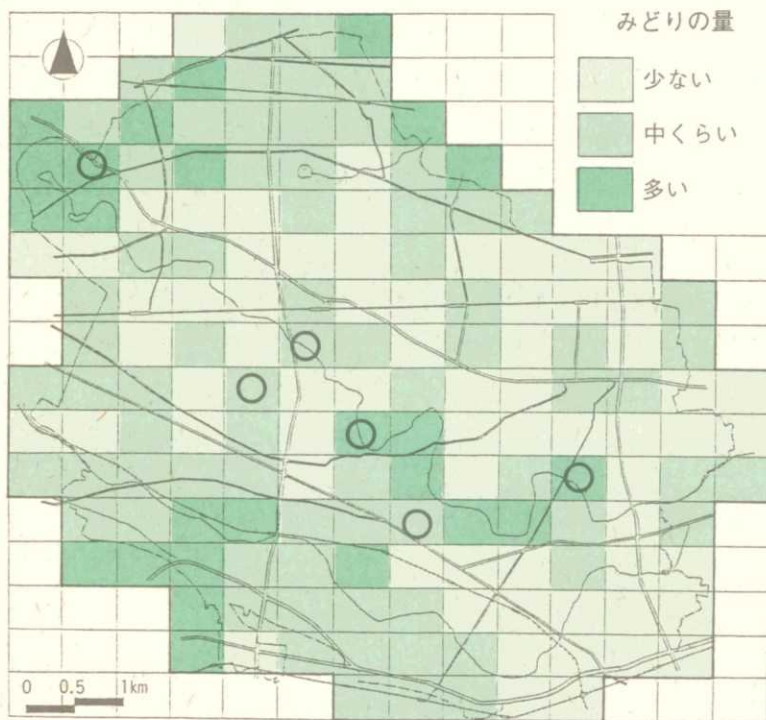


■みどりの量と生き物の分布



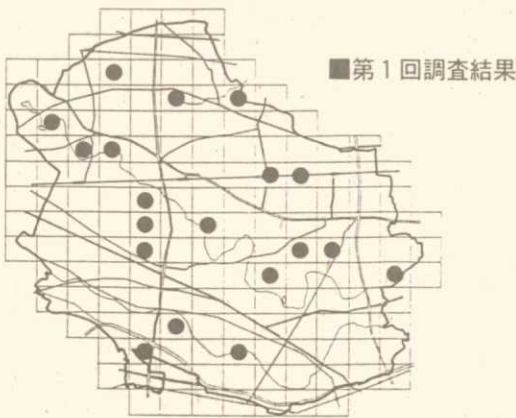
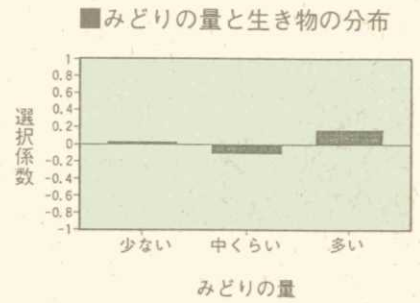
○ニイニイゼミ

梅雨あけのころ、もっとも早くあらわれるゼミで「チー——」と1日中鳴きます。善福寺川沿いにみられますが、みどりの多いところを好み、みどりの少ないところは、まったく好まない様子がよくわかります。第1回と比べると、第2回のほうがかなり少なくなっているため、減りつつあるように思われます。



○ヒグラシ

夕方や明け方に鳴くことが多いセミで鳴き声のとおり、「カナカナ」という別名があります。区内では広い範囲に点在しています。みどりの多いところを好むようですが、みどりの少ないところにもみられます。第1回と比べると、第2回のほうがやや少なくなっているため、ニイニイゼミと同じく、このセミも減ってきているように思われます。



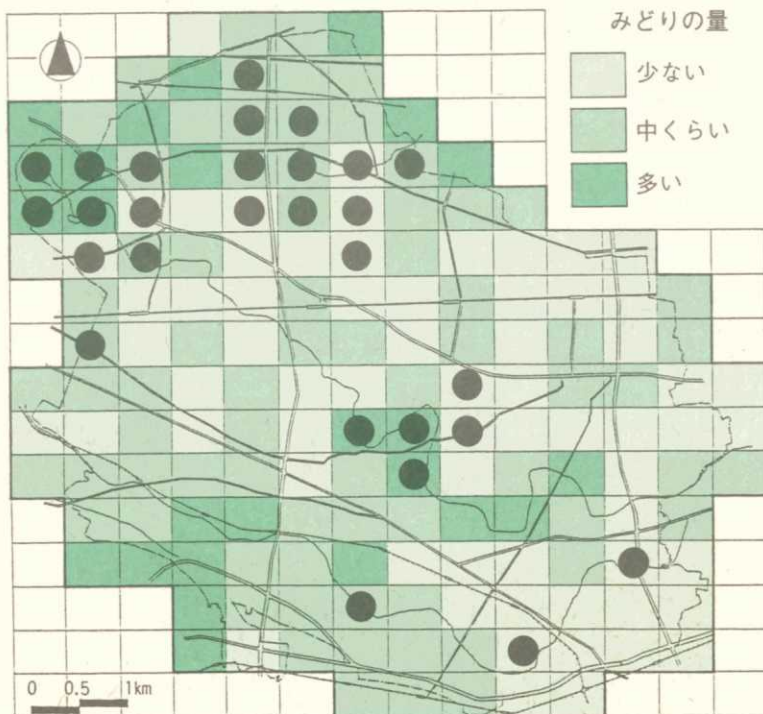
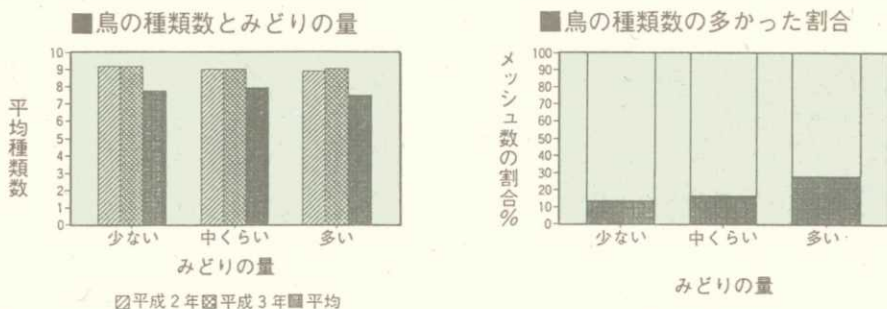
〔鳥 類〕

区内の代表的なルートを選んで行なった「杉並区自然環境調査」(平成2・3年度)では、合計19科30種類の鳥類が確認されています。このなかには、今はわずかな地域にしかみられなくなった、カワセミ、カイツブリ、バンといった水辺性の注目すべき種類も含まれています。

アンケート調査は「冬の鳥」「ツバメの巣しらべ」「鳥の集団ねぐら」「えさ台にくる鳥」などについて行なっていますので、これらについてみてみます。

冬の鳥の種類数

冬は区内で、鳥の種類が最も多い季節です。確認できた冬の鳥の種類は、平成2年度と3年度では大きな差はなく、みどりの多いところと少ないところでもあまり変わりません。冬の鳥の多かったところは、善福寺公園などがある区の北部にかたまっている様子が見られますが、善福寺川沿いの中央部などにも多いところがあります。みどりの量が多いほど、鳥の種類が多くなっている様子がわかります。

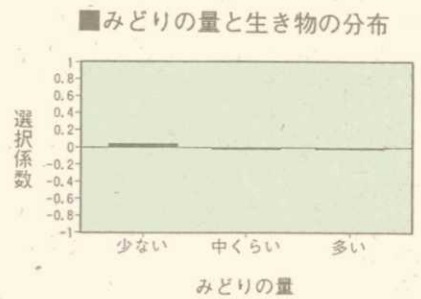
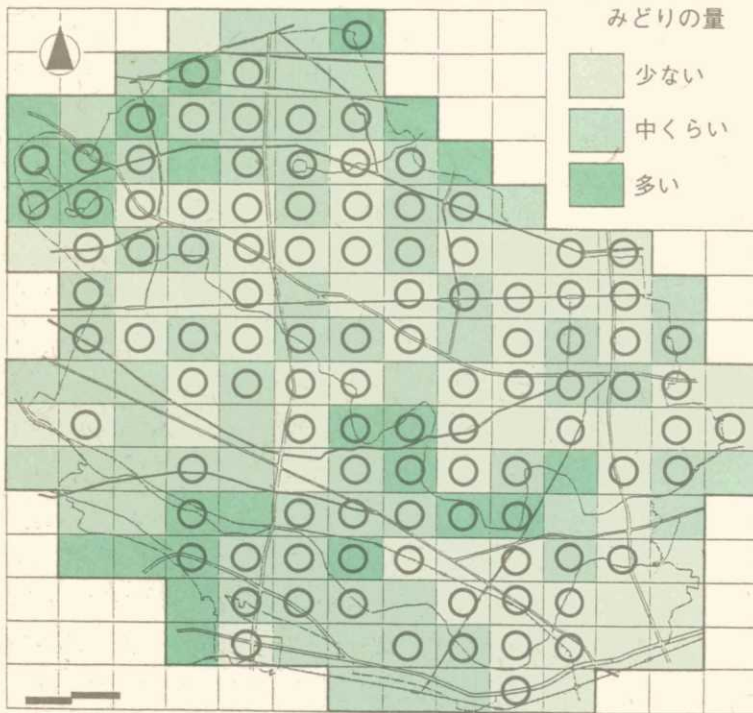


代表的な冬の鳥

アンケートで調べた鳥のなかで、区内では冬にしかみられない「冬鳥」と呼ばれる種類は、ツグミ、ウグイス、アオジの3種類です。このほか、ほぼ1年中みられるが、特に冬に多いコゲラやメジロも、代表的な冬の鳥の1種といえます。

○ツグミ

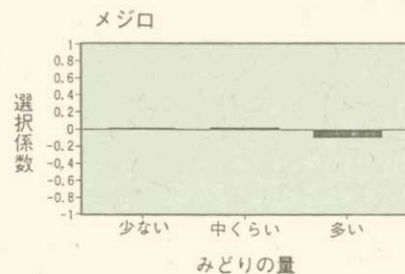
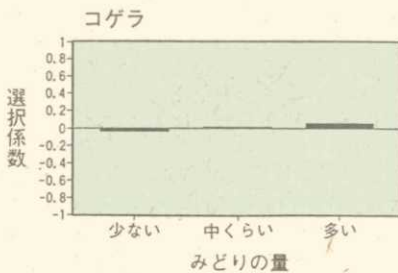
もっとも普通にみられる冬鳥です。アンケートでは、ややみどりの少ないところを好むという結果が得られましたが、ほぼ全域で確認されています。



○コゲラとメジロ

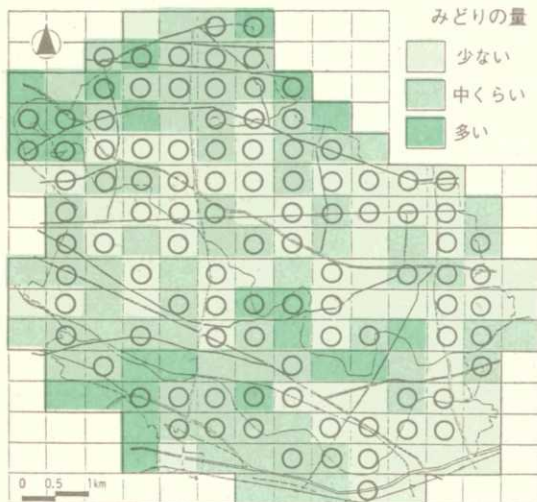
コゲラは、キツツキの間ではもっとも普通にみられ、区内でも、最近が多いようです。みどりの多いところを好む様子がみられます。

また、メジロは、暖かい地方に多い鳥で、ツバキなどの常緑樹に好んでやってきますが、コゲラとは違い、みどりがやや少ないところにも記録されています。

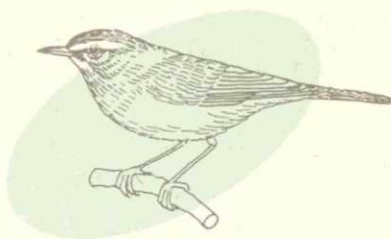
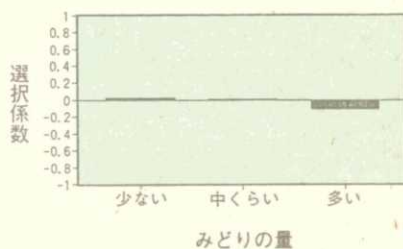


○ウグイス

東京でも1年中みられるところもありますが，区内では夏はほとんどいません。アンケートでは，それほどみどりの量にこだわらない様子がみられました。「やぶ」のようなところを好み，善福寺川沿いや，区の周辺部などにみられます。

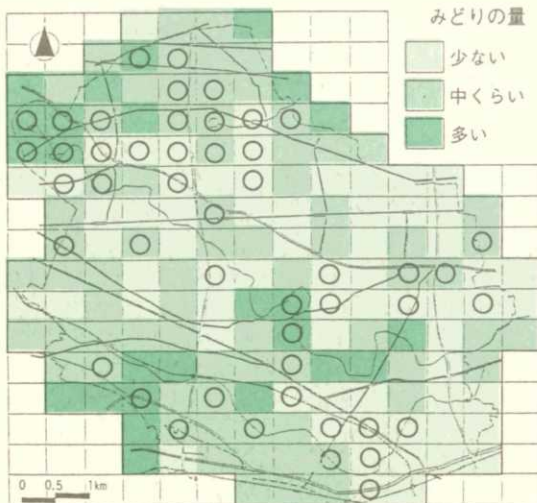


■みどりの量と生き物の分布

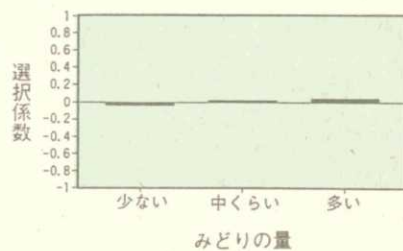


○アオジ

冬になると公園や庭などでみられますが，ツグミやウグイスより，みどりの多いところを好むようです。区内では善福寺公園など，みどりの多い北西部のほうでよくみられます。

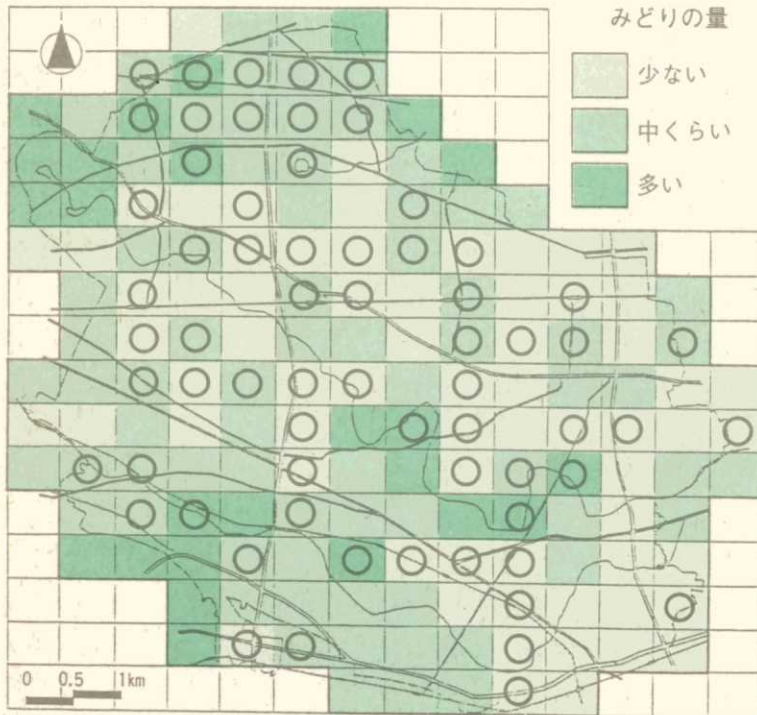


■みどりの量と生き物の分布

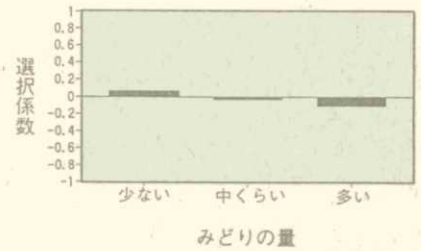


ツバメの巣

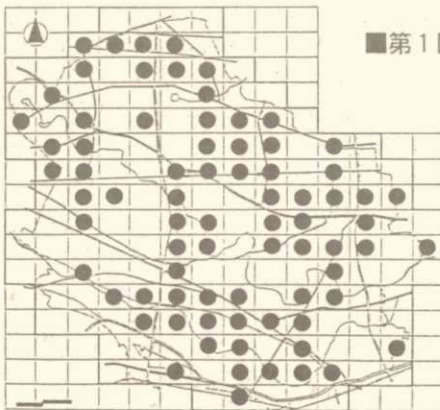
区内ではほぼ全域にみられます。この傾向は第1回と比べても、それほど変わらないようです。ツバメの巣は、どちらかといえば、みどりの少ないところに多いという結果となっています。これは、ツバメの巣が人家の軒の下などにつくられるため、みどりの多さよりも、人家や建物などと強く結びついているためといえます。



■みどりの量と生き物の分布

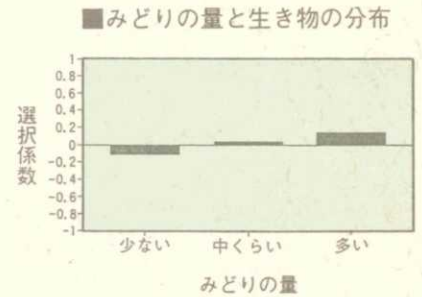
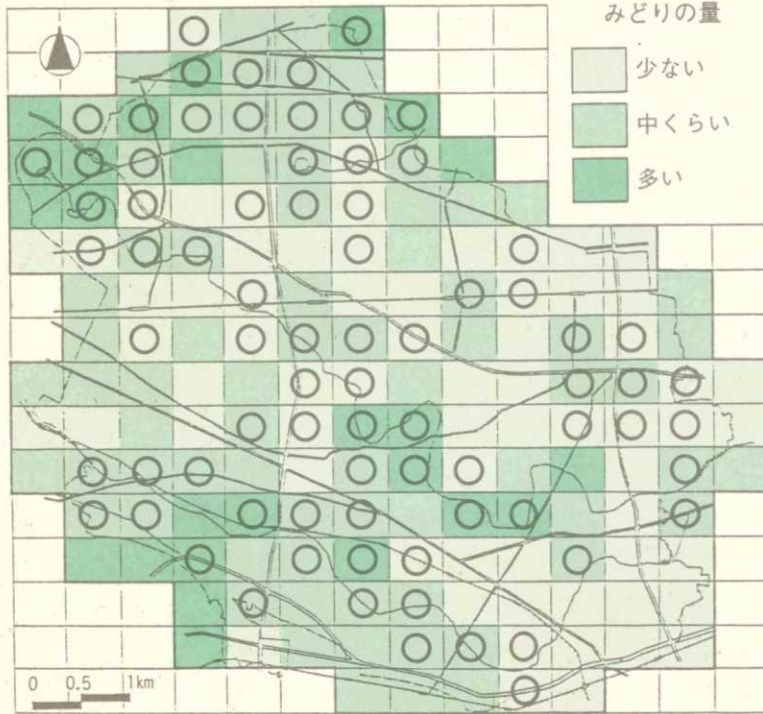


■第1回調査結果



鳥の集団ねぐら

スズメやカラスなど何種類かの報告がありました。区内に広くみられる種類が多いのですが、ねぐらはみどりの多いところに集まっているようです。最近、ムクドリやハクセキレイでは広告塔や街路樹などをねぐらにする例もみられるようになりました。

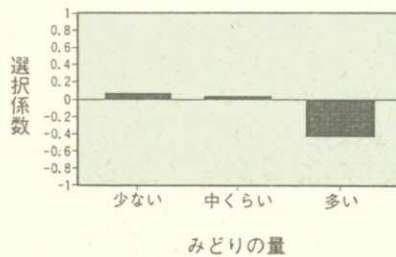


えさ台にくる鳥

区内でも、ウグイスやスズメのような小鳥から、カラスのような大きな鳥まで、いろいろな鳥がえさ台にやってきますが、みどりの多いところでは、えさ台にくる鳥の種類が少なくなっています。

■みどりの量と生き物の分布

(えさ台にくる鳥の種類10種以上)



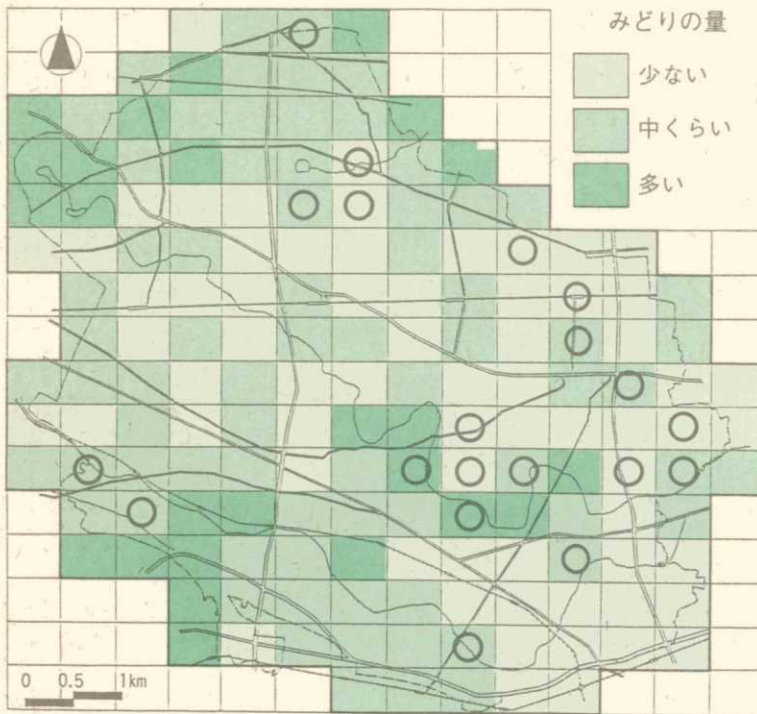
〔小動物〕 (ほ乳類・両生類・は虫類)

専門の調査員による調査は行なわれていませんが、アンケート調査では、区内のほ乳類、両生類、は虫類といった小動物も対象としています。

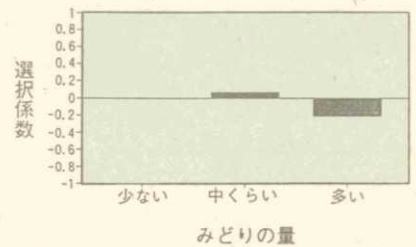
ほ乳類

○コウモリ (アブラコウモリ)

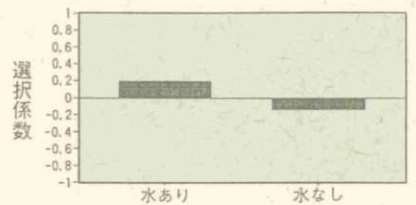
人家周辺にすんでいることから、イエコウモリとも呼ばれます。みどりの多いところはあまり好まず、中程度のところに多くなっています。ユスリカなどの昆虫類を食べるため、善福寺川の下流側沿いなど、水域を好む様子がでています。第1回と比べると、第2回のほうが少なく、善福寺川の上～中流でみられなくなっています。



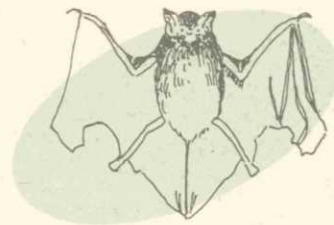
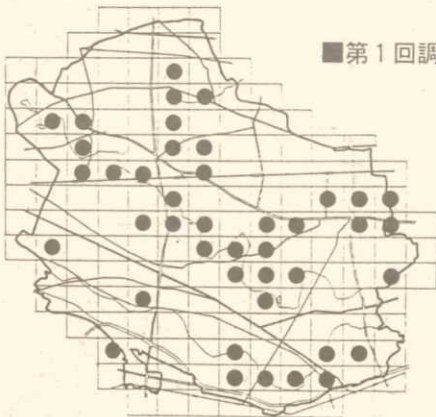
■みどりの量と生き物の分布



■コウモリと水域

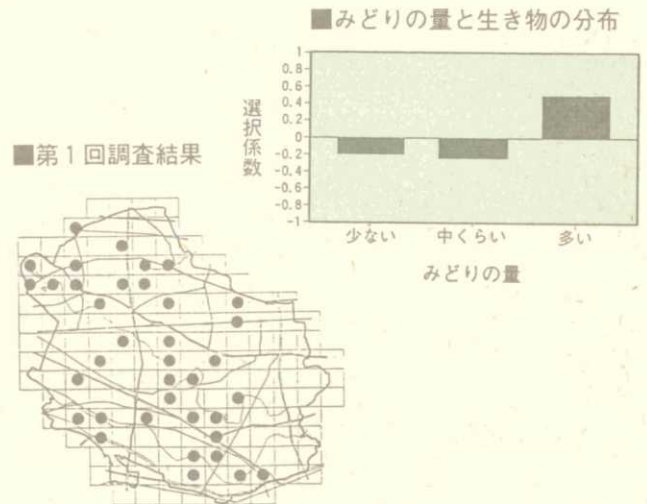
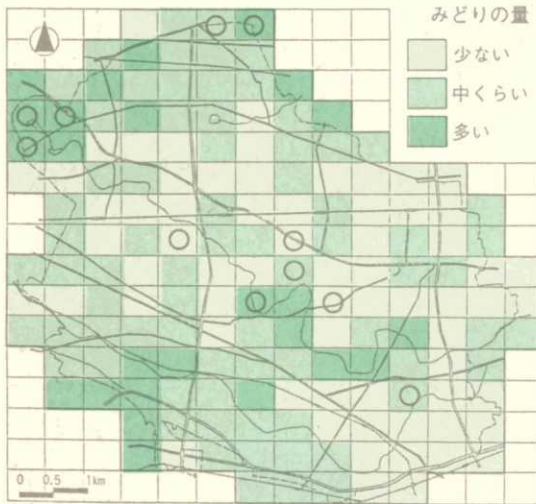


■第1回調査結果



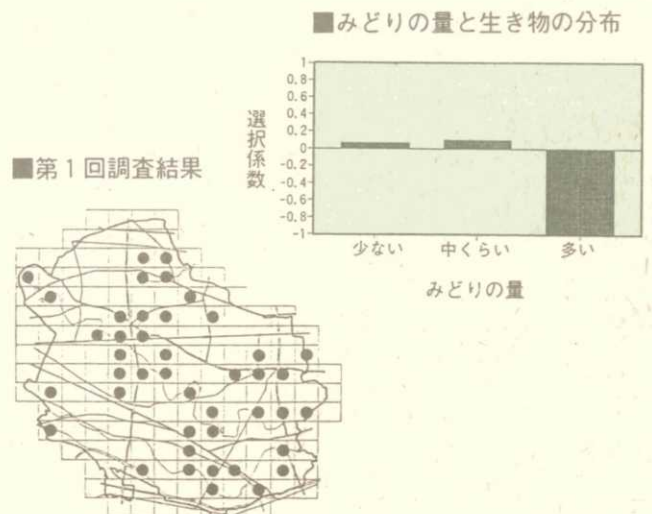
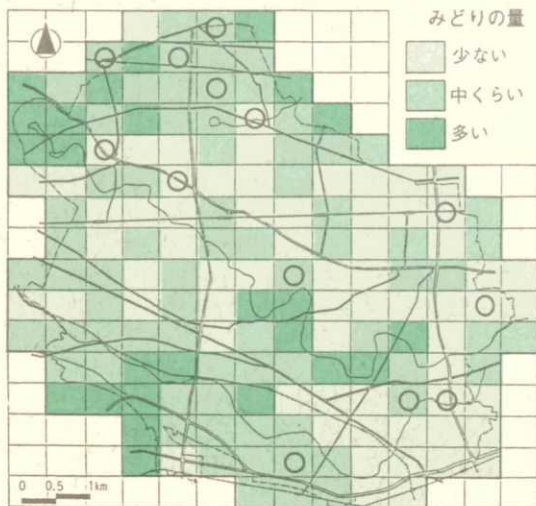
○モグラ

地下にトンネルを掘って生活しているため、土が盛り上がっていたり、掘り出した土がトンネルの出入口にみられます。善福寺川沿いなどで記録されていますが、広い土がなければ生活できないため、みどりの多いところを好む様子がみられます。第1回と比べると、第2回のほうがかなり少なくなっていることから、区内では生活場所が減ってきていることがうかがえます。



○ネズミ類

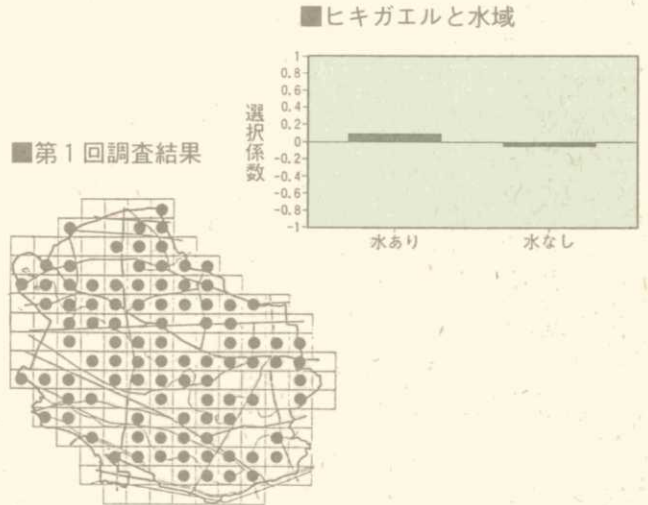
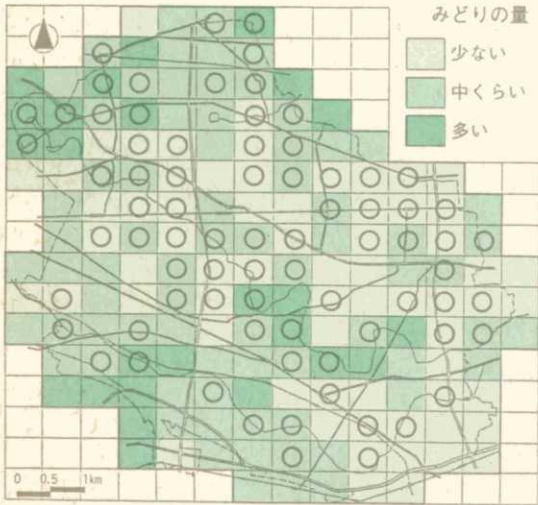
杉並区では、畑や森林などにすむネズミは少なく、人家やそのまわりにすむドブネズミ、クマネズミなどがほとんどです。そのため、みどりの少ない～中程度のところにみられるという結果になっています。第1回と比べると、第2回の調査ではかなり少なくなっています。



両生類

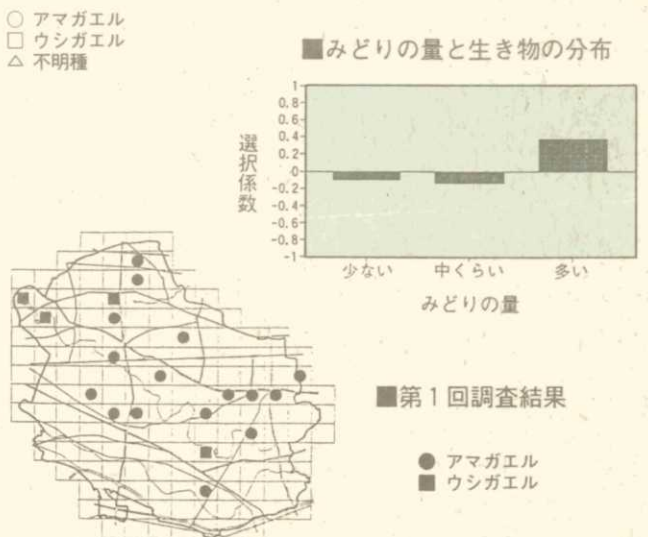
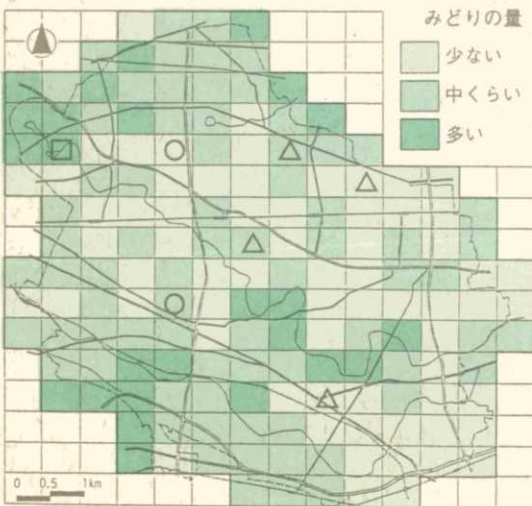
○ヒキガエル

ガマガエルとも呼ばれ、ほぼ区内全域でみられます。みどりの量よりも水のあるところを好む様子がでています。第1回と比べると、第2回はやや少なく、井の頭通りに沿ってみられないところが増えています。



○アマガエル・ウシガエル

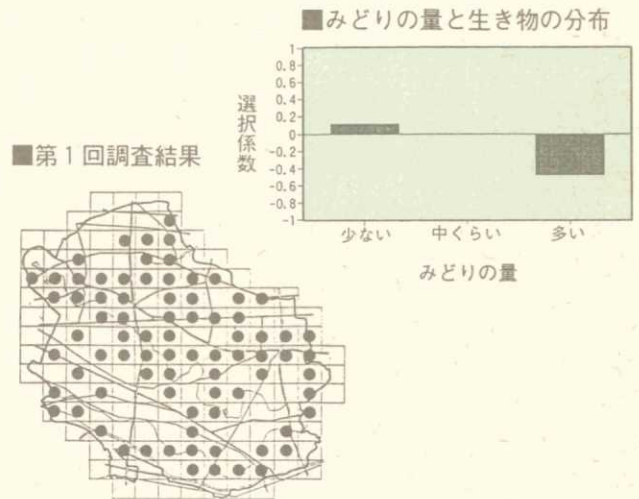
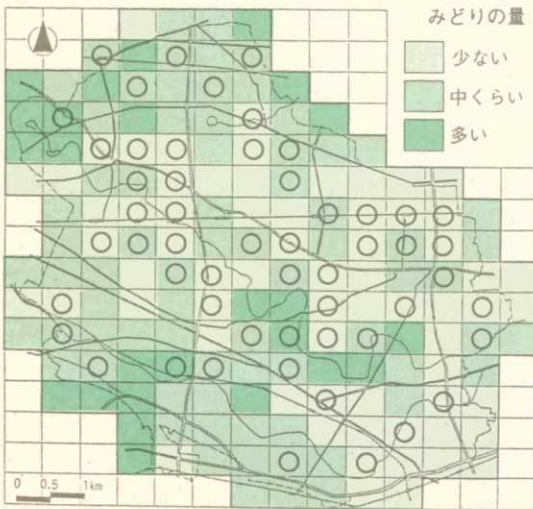
ヒキガエル以外のカエル類では、アマガエルとウシガエルがみられます。種類のわからないカエルを入れても、区内ではごくわずかな場所でしかみられないようです。みどりの多いところを好む様子がでています。第1回と比べると、第2回のほうがかなり少なくなっていることから、区内では、すむ場所が減少しているようです。



は虫類

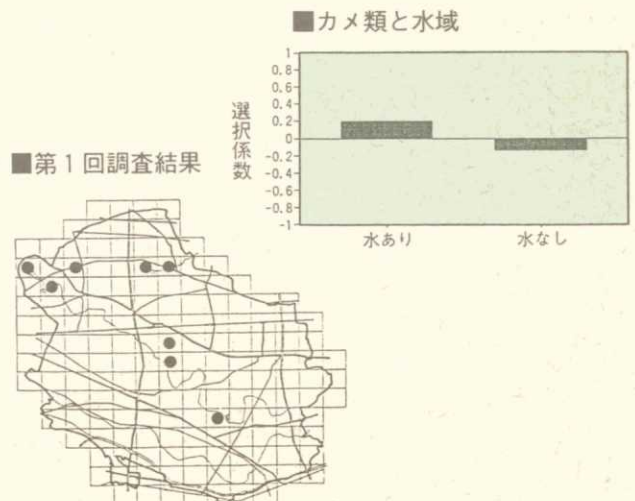
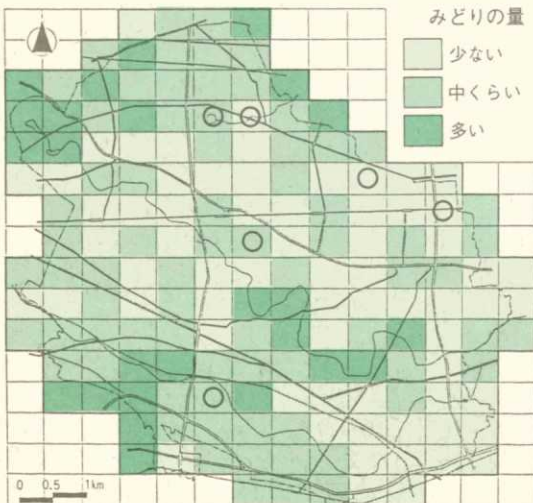
○ヤモリ

人家やそのまわりにすんでいて、ビルの中などにもみられることがあり、小さな虫などを食べています。区内全域に広くみられますが、みどりの多いところよりも、少ないところに多い様子がみられます。第1回と比べると、第2回のほうが少なくなっています。



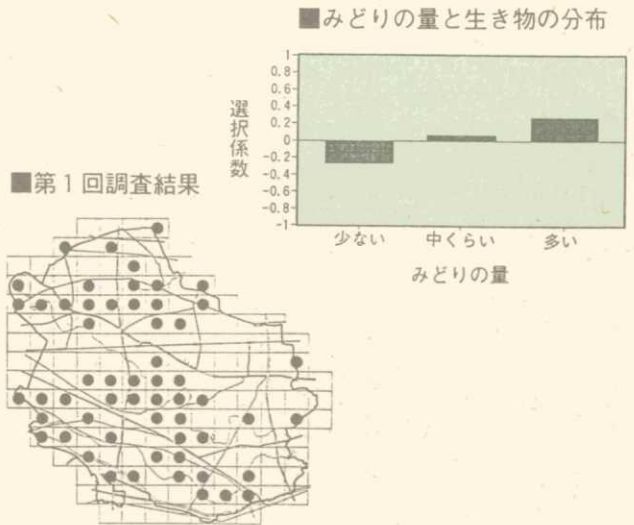
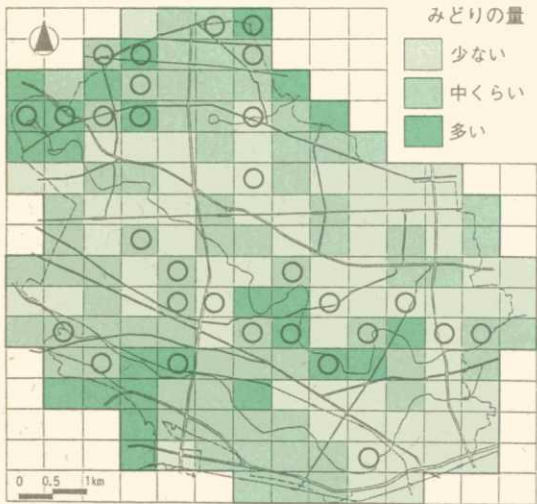
○カメ類

区内にみられるカメ類は、ペットなどが逃げだしたか、捨てられたものが大部分と思われます。アンケートでは、みどりの多いところは好まないという結果でしたが、水があるほうを好むという様子はみられます。第1回と比べると、第2回はやや少なく、第1回でみられた善福寺池や和田堀公園の周辺では確認されていません。



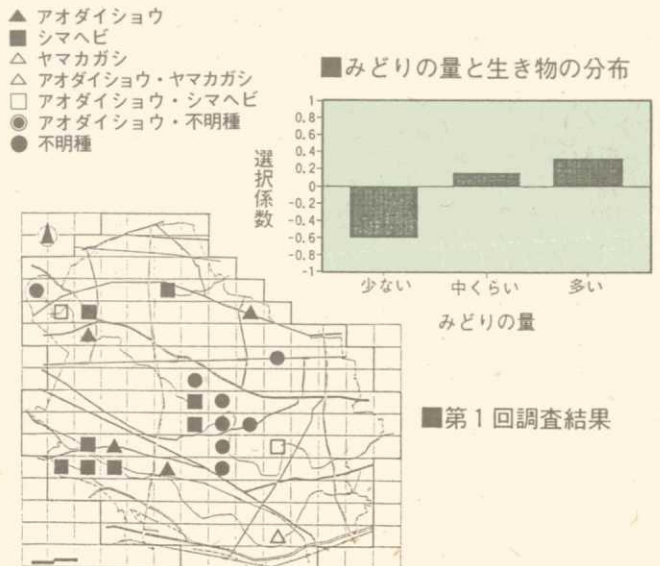
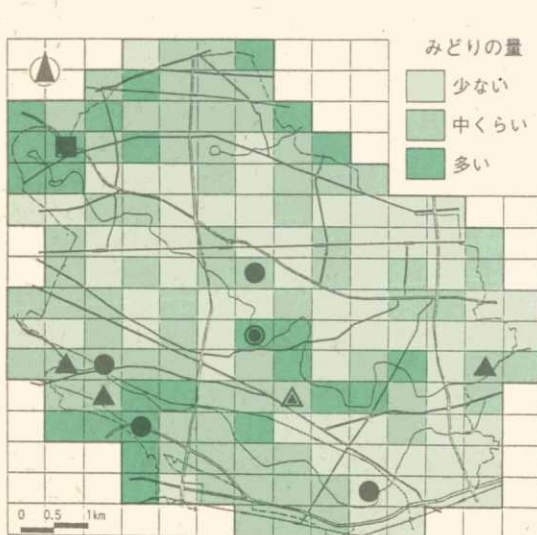
○トカゲ類

トカゲとカナヘビの2種類がありますが、アンケート調査では区別していません。区内の広い範囲にみられますが、すむ場所は限られているようです。善福寺川沿いなど、みどりの多いところを好んでいる様子が見られます。第1回と比べると、第2回のほうがかなり少なくなっているため、減少してきているようです。



○ヘビ類

アオダイショウ、シマヘビ、ヤマカガシなどですが、種類のわからなかったヘビ類を入れても、区内ではごく限られたところにしかすんでいないようです。第1回もそうでしたが、区の北部ではヘビ類はみられていません。みどりの少ないところは好まず、多いところを好む様子が見られます。これは、えさになる小動物の多さなどに関係していると思われます。第1回と比べると、第2回のほうがかなり少なくなっているため、これらも減少しているようです。

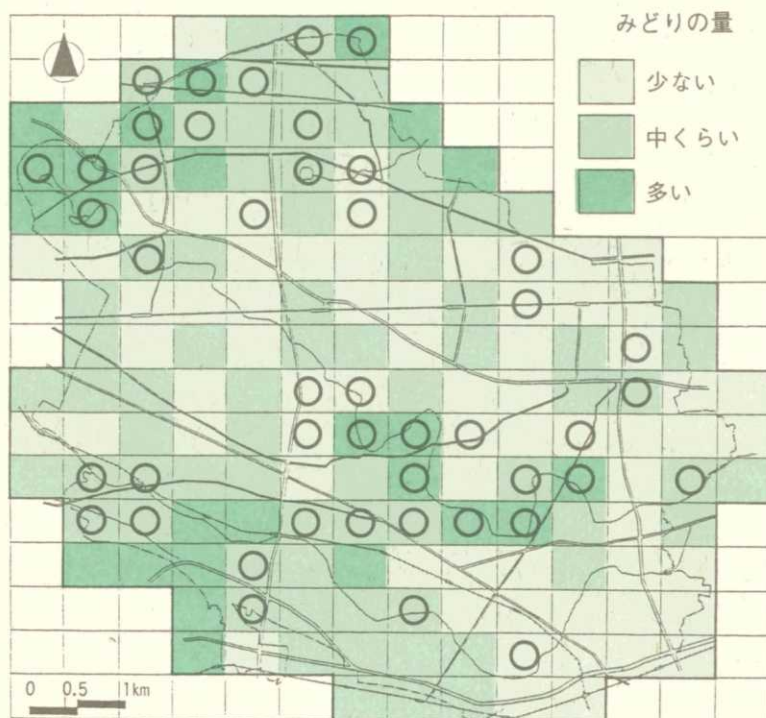


杉並の生き物とみどり（まとめ）

アンケート調査で調べた結果、杉並区にはみどりの面積が狭くても生きていける種類が多いことがわかりました。しかし、ある程度広さのある公園の緑地や神社、お寺、屋敷などの林、川といった「みどり（自然）」と結びついている種類も、いくつかみられました。

そこで、アンケート調査のまとめとして、植物の種類が多いところ、自然環境のよいところに生える植物が多いところ、また、セミやくも、冬の鳥など、動物の多いところを選んで図にまとめました。

■ 植物の多いメッシュ

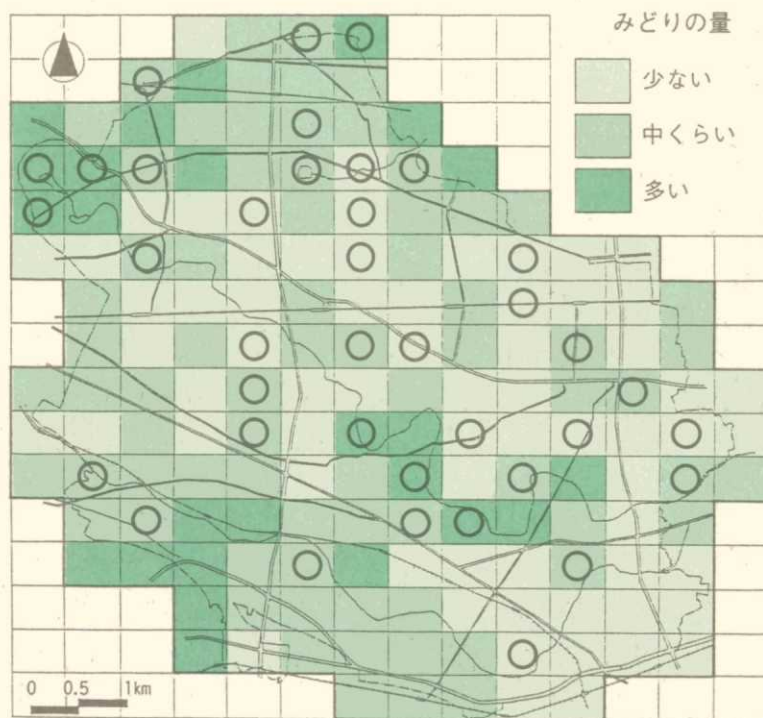


植物の種類が多いメッシュ、自然環境のよいところに生える野草（ドクダミ、タチツボスミレ、ミズヒキ、カラスウリ、ヒガンバナ、ノビル、アズマネザサ、イヌビエ、イタドリ、ホタルブクロ、クコ、クズ、センニンソウ、ノアザミ、ノハラアザミ）の多いメッシュをまとめて示してあります。

善福寺川沿いなどのみどりの多いところには、生き物が多くみられる結果となっています。しかし、みどりの少ないところでも、生き物が多いところもあります。このようなところでは、みどりの量は少ないのですが、いずれも庭木の多い住宅、池のある公園、神社やお寺、畑、それから川などがあります。このことから、生き物にとっては規模は小さくても、大小の樹木、草地、池・川など、多様な環境をもった「質の高い」まとまったみどりが必要であることがわかります。

杉並区にすむ生物は限られた「みどり（自然）」の中で生きています。生き物の、種類や数を増やしていくためには、私たちがみんなで質の高い「みどり（自然）」を守り育てることが必要です。

■動物の多いメッシュ



セミ類、クモ類、冬鳥（ツグミ、ウグイス、アオジ）、コウモリ、モグラ、カエル類、カメ・トカゲ・ヘビ類の確認されたメッシュと、冬の鳥の多いメッシュをまとめて、示してあります。

自然環境調査とアンケート調査の詳しい内容・結果の問い合わせは、

杉並区都市環境部環境保全課公害調査係
〒166 東京都杉並区阿佐谷南1-15-1
電話 03-3312-2111（代表）

まで、お願いいたします

●この報告書は環境保全を考えて再生紙を使っています

	平成5年3月発行
発行	杉並区都市環境部環境保全課 〒166 東京都杉並区阿佐谷南1-15-1 電話 03-3312-2111 (代表)
編集	株式会社 応用生物
印刷	トーコーワイス株式会社

登録印刷物番号 04-0208